

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所  
2021年度 パフォーマンス向上会議情報(2021年4月9日(金)分)

◆不適合とは、本来あるべき状態とは異なる状態、もしくは本来行うべき行為(判断)とは異なる行為(判断)を言います。法律等で報告が義務づけられているトラブルから、発電所の通常の点検で見つかる計器や照明の故障など、広い範囲の不具合が対象になります。

2021年4月9日のパフォーマンス向上会議で審議された不適合は、下記のとおりです。

番号	不適合内容	グレード	発見日
1	<p>【雑固体廃棄物焼却設備(B)の二次燃焼器バーナ軽油ポンプ(B)戻り配管フランジ下部の油漏えい跡の発見について】</p> <p>協力企業作業員が現場パトロール中、雑固体廃棄物焼却設備(B)の二次燃焼器バーナ軽油ポンプ(B)の戻り配管フランジ下部に油の漏えい跡を発見。 漏えいした油は、フランジ下部のドレン受内にとどまっていることを確認。 双葉消防本部へ連絡し、「危険物の漏えい」と判断された。 漏えいした油は拭き取り済み。 今後、漏えいした原因を調査すると共に、設備の修理完了まで、暫定対策として現場パトロールを強化する。</p>	G II	4月6日
2	<p>【サブドレン浄化設備 供給ポンプ(B)の吐出圧力上昇による供給ポンプ(B)の停止について】</p> <p>当直員がサブドレン浄化設備前処理フィルタ(B)系の閉止フランジ取付後の漏えい確認のため、供給ポンプ(B)を起動したところ「供給ポンプ(B)吐出圧力高高」警報が発生し、供給ポンプが停止した。 供給ポンプ停止後、漏えい等、現場異常なしを確認。 系統構成を再確認したところ、「全開」とすべき前処理フィルタ(A)系との連絡弁が「全閉」となっていたことを確認。 その後、前処理フィルタ(A)系との連絡弁を「全開」とし、供給ポンプ(B)を再起動し、運転状況および系統に漏えい等の異常が無いことを確認。 原因は、当直員の思い込みによる勘違いで、前処理フィルタ(A)系との連絡弁を「全開」せずに、供給ポンプ(B)を起動したためであった。 今後、再発防止対策を検討。</p>	G II	4月6日
3	<p>【6号機原子炉再循環MGセット室 柱土上部コンクリートの亀裂発生について】</p> <p>当直員が現場パトロールにおいて、6号機原子炉再循環MGセット室内の東側中央部の柱土上部コンクリートに亀裂を確認。 設備主管Gにて現場確認を行い、室内への立ち入り規制等は不要であると判断。 建屋機能への影響なし。 現在、補修工事を計画中。</p>	G III	4月5日